

# まぶた外来について

形成外科 松葉啓文

まぶた外来では上まぶたに関する様々な疾患を取り扱っています。代表的な疾患について紹介させていただきます。

## 眼瞼下垂症とは

眼瞼下垂は文字通り **上まぶたが下がっている** 状態です。そのため「まぶたが重くて、視野が狭い」「目が腫れぼったく、垂れている」「上まぶたに窪みがあった」などの症状や、上まぶたの筋肉の代わりにおでこの筋肉を多く使用するので頭痛や肩こりの症状を生じることがあります。ほとんどの方は上まぶたを挙げる筋肉が弱くなる、もしくは上まぶたの皮膚が弛むことで発症します。**加齢性によるもの**がほとんどですが、筋肉や神経由来の疾患が原因の場合もあります。外来で診察を行い、最適な手術方法をご提案させていただきますが、**患者様の希望に沿えるように**相談させていただきます。

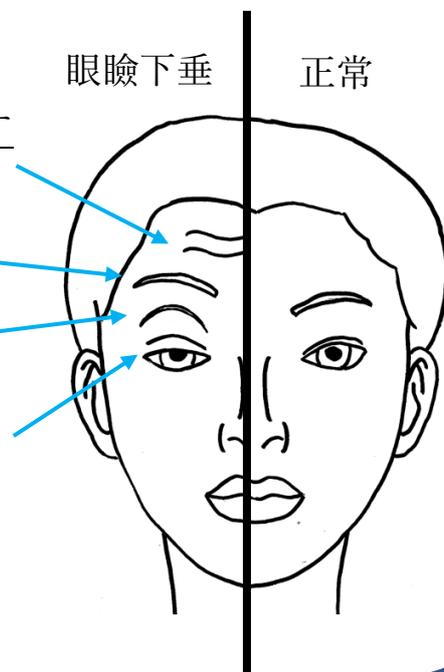
眼瞼下垂      正常

おでこの筋肉でまぶたを挙げるのでしわが強く出ます

おでこが挙がる分、眉毛が上がります

まぶたにくぼみができます

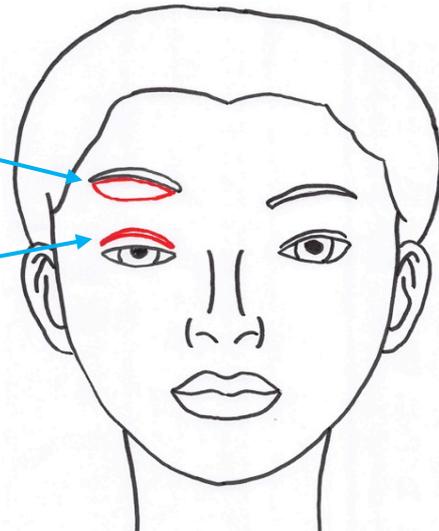
目が腫れぼったくなり、二重の幅が大きくなります



手術方法は主に上まぶたを挙げる筋肉を付け直す方法（**挙筋腱膜前転法**）と弛んだ皮膚を切除する方法（**眉毛下皮膚切除法**）があります。自宅が遠方の方、抗凝固薬や抗血小板薬を服用されている方、糖尿病などの内科疾患をお持ちの方、ご高齢の方などの患者様には、手術前後の安全のため入院をお勧めしています。

眉毛下皮膚切除法

挙筋腱膜前転法



Q1.術後はどのような経過をたどりますか。

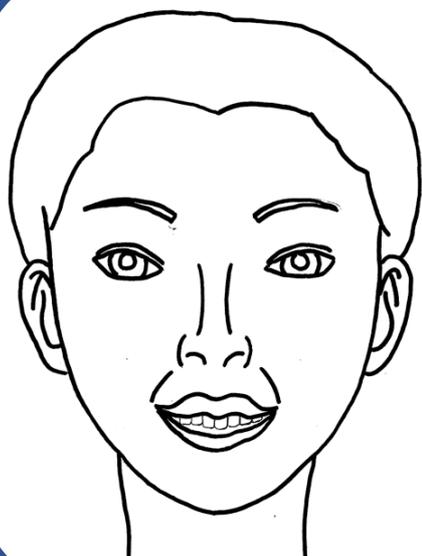
手術終了時は上まぶたにガーゼが貼られ視野が一部妨げられた状態になります。手術翌日以降は上まぶたのガーゼを外した状態での全身のシャワー浴が可能です。長時間の入浴や激しい運動、飲酒は腫れを助長するためお勧めしません。**抜糸は術後約1週間**で行います。デスクワークのような屋内での作業は手術翌日から可能です。腫脹は2.3週間で落ち着きますが、写真撮影などの機会があれば**1ヶ月は空けてから**予定を立てていただいた方が無難です。

Q2.手術の合併症はどのようなものがありますか。

術後早期には、上まぶたの腫脹、内出血、違和感を生じることがあります。稀な合併症として、結膜炎、角膜炎など眼科的治療が必要な症状を生じることがあります。また、**顔貌の変化**、**眼瞼下垂の再発**を生じる可能性があります。

Q3.費用はどれくらいですか。

3割負担の方が両側の手術を施術された場合、日帰りで5.6万円程度、2泊3日の場合8万円程度になります。個室代、食事代は含まれていません。手術が患者様が御自身で加入している医療保険の対象になるかは保険会社にお問い合わせください。



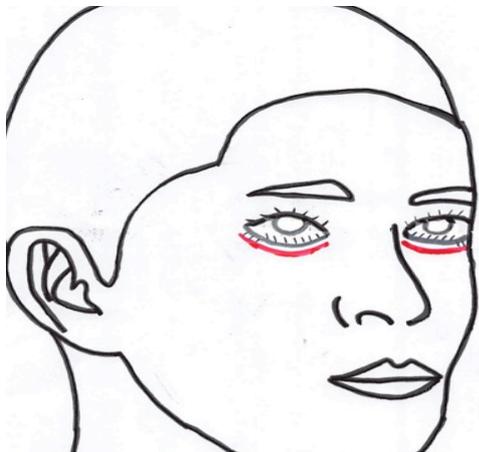
まぶたの外来は毎週月曜の午後に行なっています。

他の平日の通常の外来での診療も可能です。

## 睫毛内反・眼瞼内反症とは

睫毛内反・眼瞼内反症は別名「逆まつげ」と言われます。まぶたが内側に向いてしまっているため、皮膚やまつげが眼球に当たり、不快感や痛み、悪化すれば結膜炎を引き起こします。思春期までの子供や高齢者でよく見られる疾患で、症状が強ければ手術で治療することになります。手術は局所麻酔で日帰り手術が可能ですが、子供や安静が保てない場合は入院で全身麻酔の手術が必要になります。

手術はまつげの近くを切開し、糸でまぶたを矯正します。目がしらの蒙古ひだが原因になることがあり、その場合は同時に手術で治療します。抜糸は術後1週間程度で行います。



まぶた近くを切開して矯正します。